

「苦東環境コモンズがめざすもの」

勇払原野に新たな環境保全の試みを

フォーラム

【苫小牧】勇払原野の新しい環境保全の試みを考えるフォーラム「苦東環境コモンズがめざすもの」が19日、苫小牧市サングァーデンで開かれた。

NPO法人苦東環境コモンズ設立準備事務局の主催。約90人が集まり基調報告や講演、パネルディスカッションに耳を傾けた。

苫小牧東部地域を舞台に、持続可能な環境保全と利活用の仕組みづくりを目指し、その活動母体として設立予定のNPO法人苦東環境コモンズの展望が発表されたほか、具体的な取り組みを参加者とともに探った。

道開発協会が設置した環境コモンズ研究会と、

はじめに環境コモンズ研究会の小磯修二座長（釧路公立大学長）が、「環境コモンズによる苦東再生」について基調報告。苦東環境コモンズとは「苦東の豊かな自然を守りながら利用させてもらう仕組み」「土地の重層的な利用によって持続可能な環境を保全する」



ことであると解説。約1万2000坪ある苦東の空間を、新しい発想で有効活用する方策を提言した。また、コモンズ（共有、苦東環境コモンズの役割と可能性について意見を交わした

ていく可能性がある」と評価。NPO法人の活動が先導役になると期待を寄せた。

続いて道環境財団の辻井達一理事長が「勇払原野を楽しむ方法」と題し基調講演。

「勇払原野は昔から風景がほとんど変わってなく、生態系でも湿原、火山灰、砂丘のものが混在する貴重な場所」と表現。美々川自然再生計画や海外のフットパスを紹介しながら、苦東とその周辺地域をネットワーク化することで、より楽しいパリエーションを創出する地域となる可能性を秘めていると説いた。

パネルディスカッションでは、NPO法人苦東環境コモンズ設立準備事務局の草苅健氏（道開発

協会開発調査総合研究所主任研究員）が、発足に向けた背景と展望を披露した。

NPOでは、現況緑地の一定エリアの利活用ビジョンを描き、所有者の了解の下でエリア管理の一部と利活用を進める。

具体的には、コナラを中心とした雑木林の保育や、調査研究ではコナラ林の持続的保全方法の関する調査研究を実施。利活用については森づくり支援、フットパスのルート設定、イベントなどに取り組む考えを示した。

苦東環境コモンズは9月末の設立総会後に法人認可申請し、早ければ12月ごろに認可を受ける見通し。2010年度からの本格的な活動展開を予定している。

北海道建設新聞

2009年(平成21年)9月26日(土曜日)